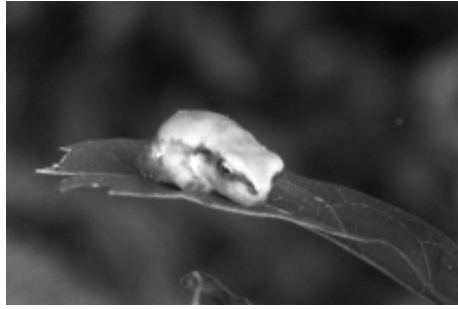


シリーズ

阿久比を歩く⑨



葉の上で休むアマガエル



多賀神社の雑木林



どこを見ているのだろうトノサマバツタ

目の前を飛び跳ねる生き物を発見。トノサマバツタだ。チョウに比べると動きが鈍かったので、正面から目を合わせる事ができた。(バツタの目は複眼で私の顔は映っていないかつたかも)

田園を通り、次の場所へ移動する。草木地区の名の通り、周りを見渡すと草木の緑がとてまぶしい。稲の背丈もかなり伸びた。秋になれば、緑色が黄金色へと変化していく。同

草木地区の自然を求めてぶらり旅に出た。

多賀神社を訪れた。大変蒸し暑く、神社奥の森では、「シャー、シャー、シャー」「ジー、ジー」とセミの大混声合唱が聞こえてくる。

境内横の雑木林に入ってみる。ひらひらと舞い上がる黒いチョウが飛んでいる。カメラのレンズに収めたいと思いつつ、チャレンジを試みるが羽を休めてくれない。昆虫の命は短い。ここぞとばかり気持ちの良い空気を吸い込んで、所狭しと羽を伸ばしているのだろう。

木の中にいるに違いない。

木の裏に回る。大きな葉の上にアマガエルが気持ちよさそうに休んでいた。ちょうど日陰になっていてカエルたちにとっては、暑い日に涼を取るには最適な場所だ。近寄っても逃げようとせず、潤んだ瞳にどこか憎めない顔をみていると、心がいやされ、体中の汗が少し引いたような気がした。

今回は白沢地区周辺を散策します。

じ場所でも一年に何度も、色の違った風景を楽しむことができる。

八幡神社に到着。参道脇に大木の切り株が残っていた。中は空洞で、餅をつく白のようになっていた。枯れずにいれば、きつと立派な大木としてそびえたっていたらどうに残念。境内に入ると大きなヤマモモの木が目につく。所どころから樹液が流れ出ている。この季節、毎日多くの生き物が集まってきては、ここで食事をしているに違いない。

